

選択して下さい

シンポジウム(一部指定演者):この行は選択しないで下さい

01.マルチデバイス時代のCAS:その1%をいかに向上させるか

02.破裂動脈瘤の治療:塞栓術後早期の再出血の克服と長期安定性の確保

03.血管内治療は本当に低侵襲か: EvidenceとExperience(合同シンポジウム)

04.虚血急性期治療:t-PA静注療法、機械的血栓除去術、経動脈的血栓溶解療法を駆使した治療戦略

05.新しいデバイスは治療を変えたか?: EvidenceとExperience(特別シンポジウム)

ミニシンポジウム:この行は選択しないで下さい

01.未破裂脳動脈瘤:アシストテクニックの功罪

02.脳動静脈奇形:ONYXの出現による治療の変化

03.硬膜動静脈瘻:新たな治療戦略の展開

04.頭蓋内動脈狭窄病変: SAMMPRIS study後の血管内治療の適応を考える

05.脳血管内治療の放射線支援技術:有用なImaging Technologyとは?

06.脳血管内治療におけるコメディカルの役割

一般演題:この行は選択しないで下さい

01.解剖、発生、生理

02.画像診断、血管造影、診療支援

03.機器、器材

04.周術期管理・薬剤、モニタリング

05.医療システム、教育

06.合併症、危機管理

07.脳動脈瘤

08.脳動脈解離

09.急性期血行再建術

10.頸部頸動脈狭窄性病変(CAS)

11.頭蓋内動脈狭窄性病変

12.脳血管準備(モ膜下出血後)

13.脳動静脈奇形

14.硬膜動静脈瘻(頭蓋内)

15.脊椎・脊髄血管障害

カテゴリ-2(必須):

選択して下さい

←ここから日本語で検索(JWord) ↓

地域を指定 ↓



ブックマーク ▶ 印

「脳血管内治療におけるコメディカルの役割」に
「～周術期からリハビリまで～」という副題を追加

筆頭著者の氏名(日本語表記)(必須):

姓(例)吉田 名(例)茂

筆頭著者の氏名(ふりがな)(必須):

姓(例)よしだ 名(例)しげる

筆頭著者の氏名(英語表記)(必須):

姓(例)Yoshida 名(例)Shigeru